

## 授業づくり

## 〇個の違いへの対応

〇タブレット端末と書見台を併用した見る力に課題のある児童生徒への支援

- ・板書とノートのように、視距離の異なる対象を見ることに課題のある児童生徒への支援

【なぜこの支援が有効になるのか】

板書を基にノートに自分の考えをまとめるといった活動は、対象となるものまでの視距離が異なるため、作業をしている間に読み書きを誤ってしまったり、作業そのものに対する疲労度が高くなってしまったりしやすい。タブレット端末のカメラ機能を活用し、視距離の遠い対象も、ノートと同じくらいの視距離で見ることができる。

〈支援・指導の実践例〉

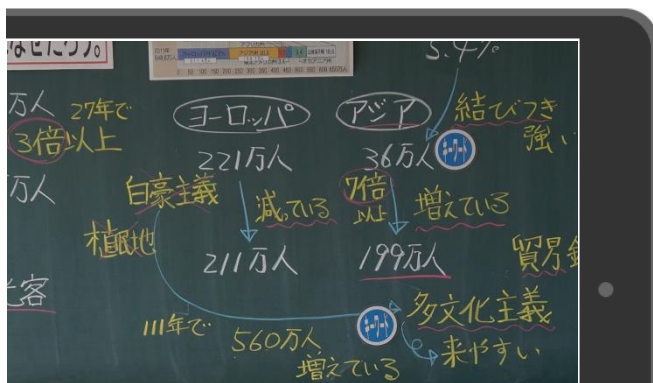
〇対象となる児童生徒に、タブレット端末のカメラ機能の使い方と、撮影時の留意点を教える。

〈留意点〉

- ・撮影時には、教室にいる仲間や教師に、これから撮影することを伝える。
  - ・対象となるものだけを撮影する。
- ※実態に応じては、教師が撮影する。



〇写真のズーム機能の使い方を教える。



～ポイント～

- ・タブレット端末が手近なところにあるだけでも助けとなるが、傾斜があることで、より見やすくなる。また、タブレット端末を平置きすることで、机上が煩雑になりやすい。
- ・書見台は、安価ではない。また、形状によっては、場所をとることになる。タブレット端末の使用だけであれば、スタンド型のケースやカバーで十分に対応できる。支援が有効であるかを試す段階であれば、演奏用の譜面台を活用するとよい。

## 授業づくり

## 〇個の違いへの対応

〇授業の振り返り（まとめ）を書いたり、仲間に伝えたりすることに困難さを感じる児童生徒への支援

- ・授業を「振り返る（まとめる）」とは、「何をする」ことかが明らかになっていない児童生徒への支援

【なぜこの支援が有効になるのか】

毎時間の授業で「振り返る（まとめる）」ことをしているが、教師や周囲の仲間の間では、暗黙の了解になっており、実際には「何をする」ことがそれにあたるのかを改めて共通理解する場合は、学年が上がるにつれて少なくなる。自分の言葉や行為で振り返ることによって、1時間の学びをより確かなものに行うことができる。

〈支援・指導の実践例〉

- 1 授業前に、教師が「本時の課題は振り返る（まとめる）ことのできる課題であるか」という視点で見直しておく。
  - ・本時のねらいや評価規準とのずれはないか。
  - ・児童生徒が「何を、どのようにすることか」が分かる表現であるか。
  - ・予想されるつまずきに対する手立てはあるか。

- 2 児童生徒と課題化したときに、「振り返り（まとめ）」の仕方を共有する。

- 3 本時、どのステップ（①～③）まで分かったか、書きまとめたり、仲間に伝えたりすることができたかを見届け、価値付ける。

※ 実態によっては、分かっているにもかかわらず書くことに抵抗がある児童生徒もいる。

例) 国語科「ダイコンは大きな根？」

課題

- ① 今日の授業でしたこと
- ② 学習して分かったこと
- ③ どうすることで、  
②が分かったのか。

課題

説明文「ダイコンは大きな根？」は、なぜ読み取りやすいのだろうか。

- ① 今日は、説明文が読み取りやすいわけを考えた。はじめに、みんなで読み取れた内容を交流した。
- ② 筆者が読み手に「問い」を投げかけた後で、「答え」を書いているから読み取りやすいことが分かった。
- ③ どうしてそのことに気付いたかということ、交流のときに、Aさんが「なぜ、～でしょう。」の段落と「～からです。」の段落があると話していたからだ。  
→ 段落の役割を考えながら読んだり、書いたりする  
といいことが分かった。

～ポイント～

- ・言語化することに抵抗のある児童生徒には、①まで振り返ることができたことを認めたり、②以降は教師が言語化したりするとよい。